

大江町まち・ひと・しごと創生総合戦略の実施状況及び評価検証

基本目標1 おおえで若い世代が安心して働ける環境をつくる										
数値目標		基準値	目標値	実績値(R2)	実績値(R3)	実績値(R4)	実績値(R5)	実績値(R6)		
雇用創出数(下記の合計)		—	60人(R2~R6)	21人	7人	12人	10人	12人	※62人(R2~6計)	
新規就農者数		—	—	2人	2人	4人	2人	3人		
起業・創業件数		—	—	0件	3件	2件	3件	1件		
企業誘致による雇用創出数		—	—	0人	0人	0人	0人	0人		
公有地等の利活用による雇用創出数(まちなか交流館)		—	—	4人	0人	3人	3人	3人		
公有地等の利活用による雇用創出数(ヤマザワ薬品)		—	—	11人	0人	0人	0人	0人		
新規学卒者等就労促進助成金の助成対象者数		—	—	4人	2人	3人	2人	5人		
施策	重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値	実績値(R2)	実績値(R3)	実績値(R4)	実績値(R5)	実績値(R6)	実績値の評価検証	
(1) 地域資源を活用した特色ある地域産業の振興										
・大江町型住宅など住宅建材への利用促進等による西山杉の販路拡大	・大江町型住宅の着工件数	5件(H27~H31)	5件(R2~R6)	0件	0件	0件	0件	0件	0件 ※0件(R2~6計)	R6までの実績はなく、R7から住宅の環境性能(省エネ基準、省エネ性能表示)が変更されるなど当初の建築環境とは異なってきたことや、大江町型住宅認定には薪ストーブや土間の設置など条件が厳しいことから、目標や戦略の見直しが必要である。
・町内の温泉施設等を活用した観光イベントの開催 ・西村山1市4町の「どまんなか探訪プロジェクト会議」、県及び村山地域の市町等による「やまがた広域観光協議会」及び「白鷹・朝日・大江広域観光推進協議会」への参画による広域観光の推進 ★地方創生関連交付金活用	・年間観光客数	7,463百人(H30)	7,500百人(R6)	3,859百人	3,883百人	4,783百人	4,942百人	6,834百人	6,834百人	R6の道の駅おおえのリニューアルにより、道の駅そのものの利用客数が大幅に増加したことと合わせ、近隣の旅行会社や大手旅行会社と連携してツアーを造成し、団体旅行客の誘致を図ってきたことにより、団体ツアーにおけるテルメ柏陵健康温泉館での入浴・食事の後、道の駅おおえで買い物という柏陵エリアの回遊ルートが確立され観光客数が増加したと考えられる。 また、広域観光による協議会等への参画により、町単独では観光客呼び込みに限界があったものが、町施設への立ち寄りという形で誘客拡大に繋がっていると見られる。
・生産拡大及び加工品開発・販路拡大	・やまがた地鶏の新規販路開拓	33件(H27~H31)	15件(R2~R6)	0件	1件	5件	0件	0件	13件 ※19件(R2~6計)	R6においては生産から販売に至るまでの体制が良い方向に変化し、新規開拓件数は過去最高となった。食鳥処理施設の稼働も安定的に行われており、県などの関係機関と連携しながら、更なる生産羽数の増加と販路拡大に向けた取り組みを継続していく。 (R2新規開拓0件、取扱店21店 R3新規開拓1件、R4新規開拓5件、取扱店25店 R5新規開拓0件、取扱店20店 R6新規開拓13件、取扱店19件)
(2) アイディアとやる気によりチャレンジする人材の支援										
・大江町就農研修生受入協議会(OSINの会)との連携によるUIJターンも含めた就農研修生の勧誘活動や受入農家による研修の実施 ・就農研修及び新規就農者の生活支援(家賃等補助)の実施 ★地方創生関連交付金活用	・新規就農研修生受入者延べ人数	7人(H27~H31)	10人(R2~R6)	2人	2人	2人	3人	1人	※10人(R2~6計)	OSINの会の積極的な活動と町の新規就農者支援施策が功を奏し、R2~6で計10人の受け入れ実績となった。今後もOSINの会と連携協力しながら就農研修生の確保に取り組んでいく。(R2実績3人、R3実績3人、R4実績2人、R5実績3人、R6実績1人)
・新たに事業を開始しようとするもの(起業)や新商品の開発に取り組むものに対する助成	・町・商工会の支援制度活用による起業・創業件数	5件(H27~H31)	5件(R2~R6)	0件	3件	1件	3件	1件	※8件(R2~6計)	町単補助事業による創業支援、近隣市町と共催している創業セミナー開催、商工会等による連携により、起業・創業の相談件数も増加し、R6年度の補助金活用件数は1件であった。今後も引き続き、起業、創業に向けて情報発信、情報収集に努める。
(3) 若い世代の働きやすい職場づくりと町内企業の人材確保の促進										
・町内企業の若い世代の待遇改善や女性が働きやすい職場づくりの推進	・ワーク・ライフ・バランス実践企業	—	5社(R6)	3社(イクボス同盟)	3社(イクボス同盟)	3社(イクボス同盟)	3社(イクボス同盟)	7社(イクボス同盟) 5社(スマイル企業) ※上記のうち4社が両方に該当	ワーク・ライフ・バランス実践企業のKPIとして、「やまがたイクボス同盟」の加盟事業所数及び「やまがたスマイル企業」認定事業所数を確認。やまがたイクボス同盟についてはH27年12月からスタートし、R6年度末で7社が加盟している。また、やまがたスマイル企業認定制度はR5年12月からスタートし、R6年度末で5社が認定されている。制度の周知を図りながら、若い世代や女性の働きやすい職場づくりの推進に努める企業の増加に取り組んでいきたい。	
・地元の若い世代や移住希望者に対する魅力ある企業の紹介	・地元就職を希望する学生の割合	23.3%(R1)	50%(R6)	—	—	—	—	—	—	企業ガイドブックを毎年更新することとし、時代にあう企業の取り組みや魅力を盛り込み、中学校や高等学校等に配布し、若い世代に地元企業の魅力紹介を行う予定。
・町内事業所への正社員として雇用された新規学卒者等に対する助成	・新規学卒者等町内就労助成金の助成対象者数	3人(R1)	20人(R2~R6)	4人	2人	3人	2人	5人	※16人(R2~6計)	管内の高校や企業に助成金の周知を図りながら取り組み、R6年度は5名の新規学卒者に助成金の交付を行った。今後も制度の周知を図り、新規学卒者の就労促進、町内定住を図っていきたい。

施策		重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値	実績値(R2)	実績値(R3)	実績値(R4)	実績値(R5)	実績値(R6)	実績値の評価検証	
基本目標2	おおえに新しい人の流れをつくる										
数値目標		基準値	目標値	実績値(R2)	実績値(R3)	実績値(R4)	実績値(R5)	実績値(R6)			
転入者		145人(H29-R1平均)	170人(R2-R6平均)	147人	171人	132人	155人	118人 ※144.6人 (R2-6平均)	※住民基本台帳人口移動報告(日本人のみ)【1~12月】		
転出者		225人(H29-R1平均)	200人(R2-R6平均)	201人	201人	202人	172人	218人 ※198.8人 (R2-6平均)	※住民基本台帳人口移動報告(日本人のみ)【1~12月】		
施策		重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値	実績値(R2)	実績値(R3)	実績値(R4)	実績値(R5)	実績値(R6)	実績値の評価検証	
(1)若者の定住促進											
【再掲】	・若者の社会参加の促進等による町内回帰の意識醸成 ・おおぞら団地の販売促進	・おおぞら団地の販売区画数	—	20区画完売(R6) ※特別分譲分を含む	12/20区画 販売済	14/20区画 販売済	16/20区画 販売済	16/20区画 販売済	19/20区画 販売済	R6は3区画の販売となり、累計R6末まで19区画(特別分譲含む)販売済。子育て世帯を対象にした情報誌でのPRIに加え、SNSでの情報発信等、子育て世帯等を中心に周知を実施するとともに、入居特典とあわせ子育て・移住支援策等の情報を一体的に提供しPRIに努めてきたが、この間コロナ禍に加え、資材高騰などによる住宅建築費の大幅増などもあり完売とはならなかった。残り1区画完売へ向け、引き続きPRIに努めていく。	
	・町内事業所への正社員として雇用された新規学卒者等に対する助成	・新規学卒者等町内就労助成金の助成対象者数	3人(R1)	20人(R2~R6)	4人	2人	3人	2人	5人 ※16人(R2~6計)	管内の高校や企業に助成金の周知を図りながら取組み、R6年度は5名の新規学卒者に助成金の交付を行った。今後も制度の周知を図り、新規学卒者の就労促進、町内定住を図っていきたい。	
(2)移住・交流施策の推進											
【再掲】	・大江町就農研修生受入協議会(OSINの会)との連携によるUIJターンも含めた就農研修生の勧誘活動や受入農家による研修の実施 ・就農研修及び新規就農者の生活支援(家賃等補助)の実施 ★地方創生関連交付金活用	・新規就農研修生受入者延べ人数	7人(H27~H31)	10人(R2~R6)	2人	2人	2人	3人	1人 ※10人(R2~6計)	OSINの会の積極的な活動と町の新規就農者支援施策が功を奏し、R2~6で計10人の受け入れ実績となった。今後もOSINの会と連携協力しながら就農研修生の確保に取り組んでいく。(R2実績3人、R3実績3人、R4実績2人、R5実績3人、R6実績1人)	
	・県の「やまがたハッピーライフ情報センター」、「移住支援事業・マッチングサイト」等を活用した移住希望者への情報発信 ★地方創生関連交付金活用	・相談窓口を通じた移住者数	1人(R1)	5人/年((R2~R6))	8人	9人	28人	35人	23人 ※20.6人(R2-6平均)	「おおえぐらし」のポスター、ホームページ、フリーペーパーによる町のイメージアップ事業が浸透し、また住宅ローンや家賃に対する補助、空き家活用補助も対象を拡充するなど、多様化するニーズに合わせて手厚い支援を行ってきた結果、目標値を大幅に超える移住者の確保につながった。今後も若者や子育て世代のニーズを把握し、的確な支援策を講じながら、移住者の確保に努めていく。 ※窓口利用のうち空き家バンク利用は次の項目と重複するため加えていない。	
	・空き家バンクの運営と登録者・利用者に対する改修費用等の助成 ・県や近隣市町との連携による首都圏の移住希望者への情報発信	・空き家バンクを利用して空き家を賃貸又は購入した件数	3件(R1)	4件/年(R2~R6)	4件	7件	12件	12件	8件 ※8.6件(R2-6平均)	空き家バンク物件紹介ページが、町ホームページの中で最もアクセスが多い。大江町空き家バンクは、新規登録件数が多い。県外、海外からも問い合わせがあり、需要も高い。使えるうちに物件登録してもらえれば移住者増に直結する。全国版空き家バンク等のサイト、田舎暮らしの本の無料掲載欄からの問い合わせも多い。令和6年度は需要に対して物件登録が不足し、成約数が前年より減となったが、それでも目標の200%を達成している。	
	・山里交流館の運営による自然体験プログラム等の提供 ・山里交流館の施設整備及び広報活動の展開	・山里交流館利用者数	1,519人(H30)	2,000人(R6)	993人	1,258人	1,903人	2,539人	2,420人	令和4年度まではコロナ禍の影響で利用者数が伸び悩んだが、制限が緩和された5年度以降は目標を超える利用者数となっている。常設の体験プログラムに加えて、子どもを対象としたイベント形式のメニューを新たに創設したところ、毎回定員を超える申し込みとなるほど人気を博している。今後、地域おこし協力隊と連携して平日利用を強化するなど、さらなる利用者の増加と地域の活性化に努めていく。 ※利用者数は宿泊とプログラム利用で貸館や訪問のみの方は含まない。	
	・まちなか交流館の運営による観光振興等	・まちなか交流館利用者数	7,467人(H39)	9,000人/年(R2~R6)	3,792人	4,346人	5,540人	6,822人	5,766人 ※5,253.2人 (R2-6平均)	令和4年度まではコロナ禍の影響で利用者数が伸び悩んだが、制限が緩和された5年度以降は増加傾向となっている。町産品を使ったメニューの提供により、地元のリピーターや町外の若い世代のカフェ利用が増えているほか、レンタルスペースも定期的な利用があるなど堅調な状況にあるが、近隣市町のカフェとの競合等により伸びは鈍化傾向にあり、目標とする利用者数には届かなかった。今後はカフェメニューのブラッシュアップや新たなお土産品の開発、ひなまつりでの特別メニュー提供等のイベントに加え、道の駅での委託販売を通じたまちなかへの誘客等により、利用者の増加とまちなかの賑わいを創出していく。	
	・ふるさと納税の寄附促進	・ふるさと納税の寄附件数	9,762件(H30)	15,000件(R6)	20,393件	19,655件	18,216件	18,235件	18,598件	返礼品による地域経済の活性化が見込めるため、引き続き新規事業者の開拓及び新たな返礼品の設定に努めていく。また、返礼品の設定については、物価高や米不足などの影響やR7年10月から寄付者へのポイント付与禁止による国基準の厳格化も踏まえ、社会情勢の変化を見据えた対応を図っていく。	
(3)特色ある教育の充実とふるさと愛の醸成											
【再掲】	・地元の若い世代や移住希望者に対する魅力ある企業の紹介	・地元就職を希望する学生の割合	23.3%(R1)	50%(R6)	—	—	—	—	—	企業ガイドブックを毎年更新することとし、時代にあう企業の取り組みや魅力を盛り込み、中学校や高等学校等に配布し、若い世代に地元企業の魅力紹介を行う予定。	
	・町民大学の充実によるいきがいと活力を創る生涯学習の推進	・大江町に住み続けたいと思う町民の割合	60.3%(R1)	70%(R6)	—	66.2%	63.8%	65.5%	69.7%	町民大学による各種講座を通して、多くの方が学習機会と趣味を得て、より充実した多様な過ごし方を実現、継続的な活動へとつながっており、引き続き、講座の充実に取り組む。	

施策		重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値	実績値(R2)	実績値(R3)	実績値(R4)	実績値(R5)	実績値(R6)	実績値の評価検証	
基本目標3	おおえの若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる										
数値目標		基準値	目標値	実績値(R2)	実績値(R3)	実績値(R4)	実績値(R5)	実績値(R6)			
合計特殊出生率		1.29(H28-H30平均)	1.43(R6)	1.13(R1)	0.89(R2)	0.94(R3)	0.77(R4)	0.54(R5)	※県子育て支援課資料(H27:1.3、H28:1.3、H29:1.34、H30:1.24)		
出生数		33人(H30)	35人(R2-R6平均)	30人(R1)	23人(R2)	25人(R3)	18人(R4)	13人(R5) ※21.8人(R2-6平均)	※厚生労働省「人口動態統計」(H27:42、H28:44、H29:39、H30:33)		
施策		重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値	実績値(R2)	実績値(R3)	実績値(R4)	実績値(R5)	実績値(R6)	実績値の評価検証	
(1)結婚希望者に対する支援の充実											
<ul style="list-style-type: none"> 婚活コーディネーターの委嘱による縁結び活動の展開 県や村山地域の市町との連携による婚活イベントの開催 		・婚姻数	25件(H30)	30件(R2-R6平均)	13件	12件	14件	14件	10件 ※12.6件(R2-6平均)	一貫して婚姻数が少ない状況が続いており、計画期間中の平均は12.6件にとどまった。結婚に結びつけるための結婚支援を改善する必要があると考える。AIナビやまがたの登録料補助を行うなどしたが、現状では婚姻数の向上には結びついていない。今後も町としての結婚支援のあり方を考えながら、県と連携して必要な情報提供を行っていく。	
(2)出産・子育てをしやすい環境の整備											
<ul style="list-style-type: none"> 特定不妊治療を受ける夫婦に対する治療費の助成 中学生までの医療費及び入院費の無料化 子育て支援センターにおける育児相談等の受付 パパ・ママスクールの実施による育児に関する不安軽減や仲間づくりの場の提供 乳児訪問指導を全戸実施 幼稚園の通園バスの無料化 		・いきいき子育て支援の対象者(3人目以降の保育料等無料化)	19人(R1)	25人(R6)	8人	12人	6人	—	—	R5.4より保育所等に係る保育料が完全無償化されたことにより補助事業終了。	
		・すくすく出生祝金	25人(R1)	35人(R6)	29人	21人	16人	12人	16人	年々減少傾向にあった出生数が、R6は増加となった。この流れを維持できるよう、町の子育て支援策の拡充およびPRIに努めていく。	
		・子育て支援センター利用実績	3,380人(R1)	3,400人(R6)	2,771人	2,755人	2,273人	3,848人	3,290人	感染症対策による利用制限が無くなったことにより、利用者数は増加傾向にある。今後も、様々なイベントを開催し、訪問時やSNSでの周知を通して、利用者数増加を目指していく。	
(3)仕事と子育てを両立できる環境の整備											
<ul style="list-style-type: none"> 放課後児童クラブの整備 		・放課後児童クラブ利用者数	65人(R1)	81人(R6)	63人	62人	67人	66人	70人	少子化の影響を受けながらも、共働き世帯の増加等により利用者数は横ばいとなっている。放課後のこどもの居場所となっており、特に低学年の利用者が多い傾向にある。今後も、利用料補助事業の対象者拡充などを通して、利用しやすい環境を作っていく。	

施策		重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値	実績値(R2)	実績値(R3)	実績値(R4)	実績値(R5)	実績値(R6)	実績値の評価検証
基本目標4	おおえの地域力の強化と安心・堅実な暮らしをまもる									
数値目標		基準値	目標値	実績値(R2)	実績値(R3)	実績値(R4)	実績値(R5)	実績値(R6)	※R6に実施した町民アンケートの結果	
【再掲】大江町に住み続けたいと思う町民の割合		60.3%(R1)	70%(R6)	—	66.2%	63.8%	65.5%	69.7%		
施策		重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値	実績値(R2)	実績値(R3)	実績値(R4)	実績値(R5)	実績値(R6)	実績値の評価検証
(1) 地域力の強化										
	・住民が主体となった公益的な活動に対する助成の実施 ・集落活性化支援交付金による各集落の地域活動等に対する助成の実施	・地域づくり計画の策定数	6地区(H27～H30)	10地区(R2～R6)	—	—	—	—	—	助成対象が存在しない。 ※地域づくり計画の作成を定義していた集落活性化交付金の該当メニュー廃止済。
(2) 快適な暮らしを支える生活環境等の整備										
	・行政と地域が連携した除排雪等対策体制の構築	・除雪支援員の確保	10人/年(R1)	12人/年(R2～R6)	11人	8人	7人	9人	0人 ※7人(R2-6平均)	七軒地区を対象とした実施してきた地域除雪活動支援モデル事業は、各地区1人以上の支援員を配置することとしていたが、高齢化が進んでおり、年々担い手が減少していることもあり、制度の廃止に向けて調整を図ることとする。
		・大江町雪から家を守る事業補助金の交付件数	2.4件(H27-H31平均)	3件/年(R2～R6)	1件	1件	2件	1件	0件 ※1件(R2-6平均)	R5の降雪量が少なかったこともあり申請件数が0件となっている。豪雪地帯という本町の特性より支援しているものであるが、申請件数について伸び悩んでいる状態であり、国の交付金配分についてR7は0円であった。また、対象工事メニューについてリフォーム補助と重複しているものもあることから、今後、住宅リフォーム補助のみへの切り替えも検討する段階と思われる。
	・町営バスの運行及びスクールバスとの併用廃止に向けた検討 ・町営バスでカバーできない地域を対象としたデマンド型タクシーの運行	・町営交通機関(町営バス及びデマンドタクシー)の1人当たり年間利用回数	2.4回(H30)	2.5回(R6)	2.0回	2.0回	2.1回	2.2回	2.0回	R6町営バス利用者は延べ10,986人、乗り合いタクシーは延べ3,187人であった。乗り合いタクシーのH30(基準値)利用者は1,956人で当時より利用者は増加している。一方、町営バスのH30(基準値)利用者は18,262人で、大きく減っている。町営バスは通学利用の高校生の割合が高く、その年の利用者数は生徒数及び通学状況に左右されやすい。生徒数の減少による利用者の減に加え、R6は年末頃、左沢高校生を対象としたスクールバスの試験運行を実施したため、左沢駅前発の利用者を中心にさらに減ったと考えられる。目標達成には、乗り合いタクシーの運行継続とともに、高校生を中心とした利用者の呼び込みが課題である。
	・活動環境の向上による消防団員の維持確保	・消防団員数	—	280人(R6)	276人	265人	223人	216人	224人	R6実績として224人(増減内訳:新入団員10名増、退団者8名減、機能別6名増)となった。春季演習の内容を工夫するなど、通常の点検等も含めて各体制毎に工夫して活動していた。
	・自主防災組織の設立推進	・自主防災組織	28組織(R1)	33組織(R6)	28組織	28組織	28組織	30組織	30組織	自主防災組織の新規設立が増えてきている。各地区に出向き説明会を開催するなどの活動や説明できるように職員が防災士の資格を取得したりと、地道な活動が成果を出している。今後も組織の設立に繋がる活動を様々な形で促していくと考えている。
(3) 社会福祉の充実										
	・受診率向上のため、個人負担軽減クーポンの発行や健診申込、受診の勧奨事業を実施 ・メタボリックシンドロームに着目し、生活習慣病の有病者、予備軍を減少させる目的で検診を実施	・特定健診の受診率	51.5%(H30)	60%(R6)	53.6%	56.5%	58.4%	58.3%	59.5%	特定健診の申込みのない方への電話勧奨や個人負担軽減クーポンの交付に加え、R3は基本診査項目等の対象者を30代にまで拡大、R4には16歳以上に拡大することで利便性を高めており、受診率向上のため今後も取組を続けていく。
	・介護予防事業の強化などにより、高齢者の生涯にわたる健康づくりを推進する。 ・地域包括支援センターが中心となり、医療・介護・予防・住まい・生活支援のサービスを切れ目なく提供する地域包括ケアシステムを構築する。	・介護予防事業参加者数(延べ)	延べ6,250人(R1)	延べ6,500人(R6)	延べ 3,172人	延べ 5,668人	延べ6,430人	延べ 6,900人	延べ 8,524人	身近な地区公民館などで開催している住民主体のサロン活動や百歳体操等の実施地区が増え、参加者数が増加した。今後も地区公民館での介護予防事業が続くよう生活支援コーディネーターと協力し継続支援を行っていく。